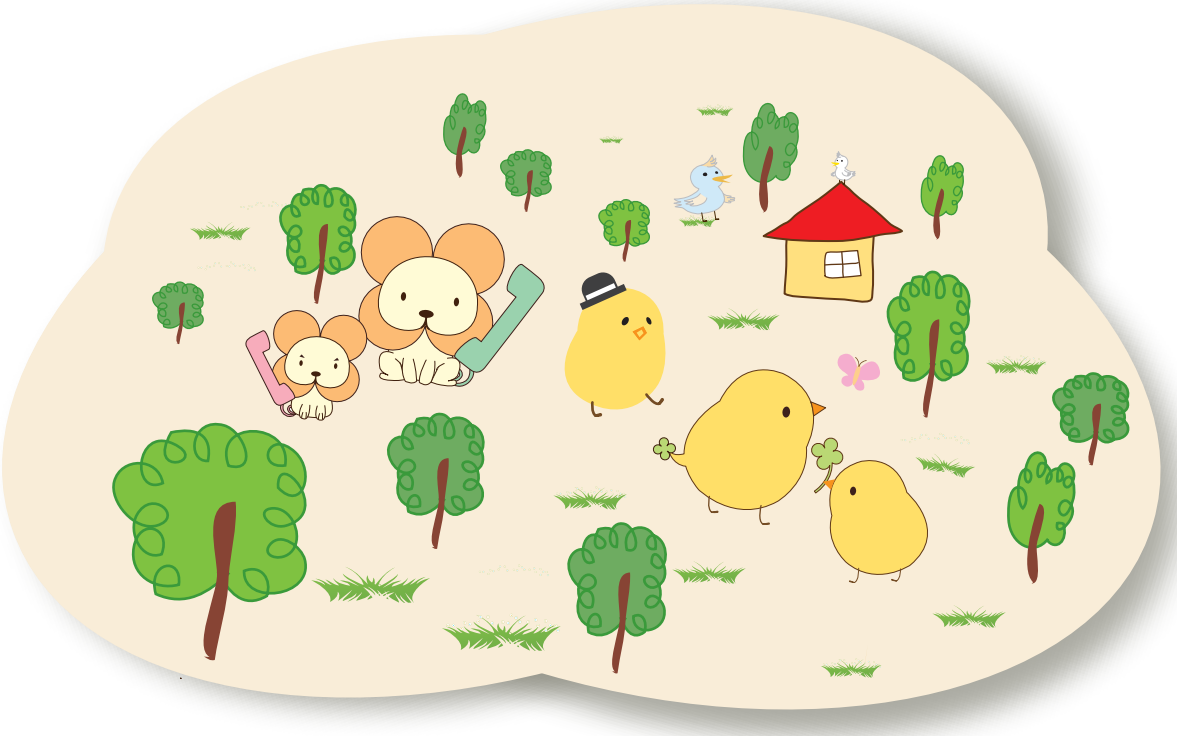
2010年度

サポートプロジェクト 関西 KANSAI

SUPPORT PROJECT

活動報告書

posp



2010年度

サポートプロジェクト 関西 KANSAI

SUPPORT PROJECT

活動報告書

posp

目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
今年度のPOSPの活動・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
POSP電話相談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
ひよっこクラブ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
POSPの広報について・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
サポートプロジェクト関西 HISTORY・・・・・11

はじめに

厚生労働省科学特別研究事業エイズ予防のための戦略研究
MSM 京阪神グループ（研究リーダー：市川誠一）の一環として、
関西における支援・相談環境を整備するチームが位置づけられました。
活動をしていくにあたって「陽性者サポートプロジェクト関西（POSP）」
を組織して早 4 年が経ち、戦略研究の期間終了も目前となりました。
POSP は、関西で生活する HIV 陽性とわかった人たちが日常のことや医療のこと
などについて、いつでも相談でき、安心してサポートを利用できる環境をつくる
ことを目標に活動してきました。戦略研究 MSM 京阪神グループとしては、
支援・相談体制が整備されてくるとともに、MSM が利用できる
検査機関の開拓がなされ、そこで感染を知った方への支援プログラム
案内も可能になり、受検機会広報の活動も積極的に進められてきました。

最終年度である 2010 年度の
POSP 活動報告をここにお届けいたします。

■ 今年度のPOSPの活動

2010年度も、「POSP電話相談」と「ひよっこクラブ」を引き続き実施した。両プログラムとも、これまでの立ち上げおよび試行時期を経て定着時期に入っており、今後の継続を念頭におきながら活動した。2007年10月に開始した「陽性者サポートライン関西」は名称を「POSP電話相談」に変更したり、対象をHIV陽性とわかって間もない人からHIV陽性の人全般とパートナーに拡大するといった変化を経ながら、週に1度の電話相談を実施してきた。研修システムを構築してオンジョブトレーニングを実施し、人材増員に取り組むことで、安定したプログラム実施を目指した。開始当初は2名だった相談員が、2010年度は4名＋研修者1名となり、2月から5名体制で相談を担っている。毎月ケースカンファレンスを開催し、相談対応の向上に努めている。2011年2月末までに109件の相談があった。

HIV陽性とわかって間もない人のためのグループミーティングである「ひよっこクラブ」は、1年を超えるプログラム準備期間を経て2009年8月に第1期を開始した。現在5期の実施中で、これまでの参加者は合計22名となった。初めて土曜日夜の実施を決めた第5期には定員6名以上の参加申し込みがあり、早急に第6期の実施を予定した。安定してプログラムを実施していくために、各期を担当するサポーターの増員にも取り組んでおり、毎期後の振り返りミーティングはサポーター候補者を含め全スタッフにとっての学びの場でもある。

これらのプログラムについて、陽性の人に情報が届くように、近畿の全拠点病院、全保健所・保健センター等にフライヤーなどの資材を配布してきた。大阪府立公衆衛生研究所の協力により、確認検査結果用紙とともにフライヤーを同封してもらうことで、陽性とわかってすぐに情報を得やすい環境ができてきている。また、陽性とわかる前や検査に行く前の人にも陽性の人のためのサービスが存在することを知ってもらうことが大切であるため、MASH大阪の協力にてフライヤーを配布するとともに、コミュニティペーパーへの掲載をしてもらっている。毎年秋に開催されてきたPLuS＋においても、陽性の人のためのサービスの存在の周知を目指して、followやCHARMと共同で「なにわサポートネット」としてブースを出展した。

地域の支援者ネットワーク構築を目指して2008年度、2009年度に年数回開催してきた「カンファレンス」は、多様な立場で陽性の人に関わる方々にご参加いただき、情報交換や横のつながり構築の場としての必要性が認識された。本年度は、他の機関が主体となった継続開催を期待し、POSP主催での実施をしないこととした。その結果、関西HIV臨床カンファレンスが年に一度の講演会にて、ネットワーク構築の主旨を組み込んだ会を継続開催することが決定した。すでに2011年1月に関西HIV臨床カンファレンス会員以外の方にも案内を拡大した会が開催された。

どこで陽性とわかっても、包括的な情報を提供し、必要な場合に相談先を見つけやすくするために、大阪府内で共通して使用できる、主に陽性結果通知時に使用する冊子制作への働きかけや協力をしてきた。東京都が発行している冊子「たんぽぽ」を、大阪府、大阪市、堺市、東大阪市、高槻市が協働で発行することが決定し、本年度中に発行される予定である（お楽しみに☆）。また、陽性の人の地域生活を多面的に連携して支えるために、自治体の保健師研修会などへの協力も積極的に行った。

（報告　岳中 美江）

■ 電話相談の概要

２００７年１０月からHIV陽性とわかって間もない人を対象に、毎週水曜日１９時～２１時の間に実施をしてきた。

２００９年６月に対象者の見直しを検討し、１０月からHIV陽性とわかった人・陽性者の周りの人（家族・パートナー）を対象とした。また、名称も陽性者サポートライン関西から、POSP電話相談へと変更した。

電話相談の目的としては、①話しにくい、話す場所がない、どこに話したらいいかわからない人に相談機会を提供する②アセスメントをし、気持と環境部分を整理しながら、本人選択を支援する③情報提供を行い、選択肢の幅を広げる④受診を支援する⑤医療や行政へのクレームを受ける⑥検査環境への利用者評価情報の収集をすることである。

相談員間のケースの共有等を目的に、２００９年４月から月１回のケースカンファレンスを実施し、運営面について必要事項の検討・前月の相談ケースの共有と検討を行っている。

電話相談の基本姿勢としては、①基本的に単回の相談とする②担当制はとらない③継続的な支援が必要な場合は、利用可能な資源について情報提供をする④感染不安など、対象者外の相談の場合、内容を聞いていったん受け止めてから、適切なサービス先を紹介することである。また、電話相談に寄せられた相談内容や利用者の傾向について相談記録から把握している。相談者から了解を得たケースについては、聞き取った内容について、陽性者支援や検査相談関係者に事例検討などの場で報告している。

また、相談員の研修も行い相談員の数を増やしていくことにも取り組んでいる。その研修プロセスは、①オリエンテーションをうける②ケースカンファレンスに参加する③実際の電話相談対応を見学する④ロールプレイをする⑤スーパバイザー同席で電話相談に対応する⑤スーパバイザーが、候補者一人で対応できると判断すれば、ケースカンファレンスの場で他相談員に報告し、了承が得られれば相談員となる。現在５名の相談員で相談を担っている。

■２０１０年度の実施状況詳細

２０１０年４月１日から２０１１年１月末までの電話件数は28件である。その内訳は、陽性者１件・スクリーニング陽性１件・陽性者のパートナーや家族４件・その他（感染不安等）15件である。

陽性者の居住地の割合は、大阪２人・兵庫３人・京都０人・関西外２人・無回答１人であった。

電話相談を知った情報源としては、陽性者本人はWEBと紙資材２件・WEB4件・口コミ１件・他１件であった。スクリーニング陽性本人はWEB1件、パートナー・家族はWEB3件であった。

陽性者の年齢割合は、20代：０人・30代：６人・40代：１人・50代：０人・不明１人であり、セクシャリティは、MSM1人・その他２人・不明５人であった。陽性とわかった場所は、医療機関４人・保健所２人・不明２人であった。

■一年を振り返って・今後の課題

陽性者からの電話相談の件数は前年度に比べて増えていないが、感染不安の電話相談は増えている。地域別でみると、関西以外からの電話相談も増えている。

相談件数が増えていない理由については、陽性が解った場面や初診時において、医師・看護師・カウンセラー・医療ソーシャルワーカーなどの専門職種の介入があり、相談していく中で不安要素が軽減されているケース、インターネット検索によりHIVの知識を得ているケースや、HIVの事を相談できる人や陽性者が周りにいるため、電話相談を必要としない陽性者が増えているのではないかと考えられる。

一方、インターネットを利用しないため情報を得にくい人（高年齢層の陽性者など）や、相談できる場がない人、医療的には安定をしているため年に数回しか病院にいかない人、もしくは病院では相談しにくい人などには、電話相談という機会が必要な可能性は高いと考える。そのためこのような層に周知することが今後の課題である。

また、陽性者のパートナーや家族がクリニックや検査場で、HIV検査を受ける際に、相談をすることがあり、陽性者が通院する病院には相談しにくい様子がうかがえ、相談機会も限られている。当電話相談では、陽性者だけでなくパートナー・家族など周囲の人も対象としており、その事を知ってもらう事が大切である。

電話相談の利用に関しては、今のような週１回２時間の限られた枠よりは、思い立った時にいつでも電話ができるような体制が、利用しやすさにつなげるためには必要である。そのためにも相談員の募集・研修を実施し、新しい相談員の確保が大切である。

（報告　平島 園子）

1 広報のこれまで

陽性者サポートプロジェクト関西（以下、POSP）では、2009年７月より、広報全体のリニューアル作業に取り組んできた。立ち上げ当初より実施しているPOSPのプログラムは、HIV陽性とわかって間もないひとのための電話相談「陽性者サポートライン関西」と、地域の支援や相談に係る専門職を対象とした「カンファレンス」がある。これら二つのプログラム広報は、電話相談の周知を主な目的とし、ホームページとフライヤーの制作が行われてきた。広報のリニューアルは上記に加えて、2009年８月よりHIV陽性とわかって間もないひとのためのグループミーティング「ひよっこクラブ」の活動開始に合わせて行われることとなった。

目的は、POSP全体の視覚的イメージを一新し、プロジェクト全体を通して統一感を出すこと、組織についての説明、理念、目標をよりわかりやすく整理し、それらを利用者に対して正確に伝えることであった。リニューアルプロジェクトの開始にあたって、最初に取り組んだ作業は、フライヤーの制作である。ホームページのリニューアルを先に行うべきではないかという意見もあったが、まずは、伝えたいイメージや言葉を引き出し、整理された情報を紙へ落としこむ作業、フライヤーをつくることを優先した。完成したフライヤーを元に次のステップとして、ホームページのリニューアルに取り掛かる計画を立てた。2009年７月より、広報チームと各プログラムスタッフとの間で意見交換を行い、キャラクターを作り、イメージカラーを選び、言葉づかいを揃えるなどの作業をていねいに行った。そして、2009年10月に広報の基本となる「POSP活動案内」と「ひよっこクラブフライヤー」二つの紙媒体が完成した。

2 テーマとしたこと

1）プロジェクトに興味を持ってもらうきっかけになるような、ポップでキャッチーな「キャラクター」をつくる。

・キャラクターについて

POSPのロゴマークには四つ葉のクローバーを、ひよっこクラブには参加者の多様性を表した様々なひよこたちを、電話相談には受話器を持ったやさしいライオンを描いた。全ての絵をならべて見たときに、一冊の絵本のようなつながりを感じられるように、イメージを膨らませながらデザインを行った。

2）安心感を得てもらえるような、「色づかい」「言葉づかい」に配慮をすること。

・色づかいについて

色づかいは暖色系を中心とし、やさしさや柔らかさ、自然を伝える３色を選んだ。文字にも黒は使用しないことにした。

[太陽の光＝橙色や黄色][土＝赤みのある茶色][木や芝生＝明るい緑色]

・言葉づかいについて

POSPでは、各プログラムの対象となる人「HIV陽性者」を表す言葉として「陽性者」とは使わず、「HIV陽性のひと」とすることにしている。理由は、「・・者」とするよりも「・・のひと」とした方がやさしく柔らかなイメージを受けるのではないかという、利用者へ向けた配慮にある。また、プロジェクトの正式名称である「陽性者サポートプロジェクト関西」についても、広報で使う場合に限り、呼びやすさを考慮し、「POsitive Support Project」の略称となる「POSP（ぽすぷ）」とすることにした。それに合わせて電話相談の名称も「POSP電話相談」に変更をした。

3 ホームページのリニューアル

2010 年度の目標は、ホームページのリニューアルを急ぐこと、情報の行き届いていない対象者に対し、インターネットを用いた更なる周知活動を行うことである。リニューアルにあたって、各プログラムの特性を生かしたアイデアを取り入れるために、プログラム毎に担当者を決め、リニューアルのための広報チームを結成した。ミーティングの中で出された意見の集約はコーディネーターが行い、構築はホームページ制作会社に依頼した。広報ミーティングでは、以下のようなアイデアが出された。①トップページは、直感的で欲しい情報へアクセスしやすいレイアウトにしたい。②電話相談のページでは、相談の実施日時を大きな文字で表示し、ページの中で目立つ位置にレイアウトしたい。③ひよっこクラブのページでは、対象が HIV 陽性とわかって間もないひとであることや、３回を１クールとして開催するプログラムであることを強調したい。④リンクページでは、関西に限らず全国の情報を掲載し、相互リンクの依頼をすること。⑤活動に対する意見や感想を受け付ける「ご意見箱」を設置したい。⑥ポップでやさしい印象を与えるようなデザインを心がけたい。

以上のことに配慮をしながら、急ピッチで制作を行った。携帯版を含むホームページは、2010 年５月に仮アップを行い、リンクなど全てのページが完成したのは、その４カ月後 2010 年９月である。

4 リニューアルを終えて・今後の課題

新しいホームページが完成し、半年が経過した。ここで、リニューアル前と後のアクセス数や直帰率の変化を調べたところ、ほぼ同等の値を示していることがわかった。現在のところホームページのリニューアルをしたことで、大きな成果を上げたとは言い難い状況であるが、HIV をテーマとしたイベントやエイズ学会において、QR コードのついたフライヤーを配布した直後には、携帯版ホームページのアクセス数が顕著に上がっていることがわかった。また、新たな試みとして、HIV 陽性者専用の SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の中で「ひょっこクラブ」「POSP 電話相談」の実施スケジュールを定期的に掲載し、対象者へ直接情報が届くように工夫をしている。

インターネットを用いた広報の今後の課題は携帯版ホームページの宣伝により力を入れること、PC 版ホームページでは、何度も見たくなるようなページづくりを意識し、スタッフ日記やトピックスを掲載するコーナーを作るなど、動きのあるホームページへと更新して行く必要があると考えている。

5 おわりに

広報全体を通して課題としてきたことは、HIV 陽性の人が、いろいろな場所や、いろいろな人から POSP の情報を得て、見た人の記憶に残る「知っている」活動として覚えておいてもらう。そして、その人が支援を必要とした時には「知っている」という信頼と安心感を持って、POSP のプログラムにアクセスしてきてもらう。そんな環境を整えておくことであった。

プロジェクト開始当初より、広報活動にご協力をいただいた、関西の拠点病院、保健所、大阪府立公衆衛生研究所、MASH 大阪、関係諸団体のみなさまに、心より御礼を申しげます。

（報告　伊達 直弘）

おわりに

戦略研究の終了にともない「陽性者サポートプロジェクト関西」は発展的解散をいたします。関西地域で活用されることを目指して構築してきた電話相談とひよっこクラブは今後も継続します。これまで場所の提供等のご協力をいただいていたNPO法人CHARMにおいて、陽性者支援サービスの一部として活動していきます。地域の現状や利用者のニーズに即したプログラム実施のために、戦略研究期間中の経験を活かしつつ、両プログラムとも引き続き改善をしながら継続していきたいと、思いを新たにしています。

戦略研究の開始から現在まで、プログラム構築から実施、またPOSP運営や事務局運営をともにしてきたスタッフのみなさんに深謝いたします。また、ひよっこクラブの「紹介者」となってくださった方々をはじめ、医療機関、自治体、保健所・保健センター、NPO等の方々など、利用者への案内にお力添えいただいた方々、イベント参加等に一緒に取り組んだ方々、プログラム継続を応援してくださった方々にお礼申し上げます。

今後ともみなさんとのつながりを大切にしながら、HIVとともに生活する人が自分らしく暮らしやすい地域にするための一助となれるよう活動していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

岳中 美江

サポートプロジェクト関西 HISTORY

2007年1月

戦略研究MSM京阪神グループ支援・相談体制チーム会議スタート。
名称を「陽性者サポートプロジェクト関西」とする。

2007年10月

HIV陽性とわかって
間もない人のための電話相談
「陽性者サポートライン関西」スタート。

2009年7月

電話相談の名称を変更。
HIV陽性とわかったひとのための
電話相談「POSP電話相談」とする。

2009年8月

ポジティブとわかって間もないひとのための
グループミーティング
「ひよっこクラブ」スタート。

2010年3月

戦略研究の終了にともない「陽性者サポートプロジェクト関西」は
発展的解散をする。関西地域で活用されることを目指して
「電話相談」と「ひよっこクラブ」は今後も活動を継続して行く。

サポートプロジェクト 関西 KANSAI
SUPPORT PROJECT

2010年度
陽性者サポートプロジェクト関西
活動報告書

発行日　2011年3月10日
発行　陽性者サポートプロジェクト関西
〒530-0031 大阪市北区菅栄町10-19 NPO法人チャーム 内
TEL 050-3123-4608

©陽性者サポートプロジェクト関西（POSP） 無断転載を禁ず

サポートプロジェクト関西
KANSAI
SUPPORT PROJECT

陽性者サポートプロジェクト関西（POSP）は、厚生労働省エイズ戦略研究MSM 京阪神グループにより運営されています。この四つ葉の POSP マークには、関西における支援・相談体制充実へ向けての願いが込められています。